

## 2. おかやまオリジナルリリー「アルテミス」は母球の低温処理で成苗率が高まる (情報)

### [要約]

「アルテミス」は母球を冷蔵処理(1℃)又は冷凍処理(-2℃)するとリン片苗の成苗率が高くなる。

研究室名	野菜・花研究室	連絡先	086-955-0277
------	---------	-----	--------------

### [背景・ねらい]

おかやまオリジナルリリー「アルテミス」のリン片苗栽培は、リン片挿し時の成苗率が低い。そこで母球の冷蔵処理及び冷凍処理による成苗率の向上を図る。

### [成果の概要・特徴]

1. 冷蔵処理は日数ごとに順次母球を掘り上げ、1℃で冷蔵した。冷凍処理は前年の10月に母球を掘り上げ、1℃で2ヶ月間予冷を行った後、-2℃で冷凍した。全て7月下旬に出庫してリン片挿しを行い、10月上旬の定植時に調査した(図1)。
2. 母球の冷蔵処理日数が長いほど定植時の成苗率は高くなり、展葉数が増加した(表1)。
3. 母球の冷凍処理で成苗率は高くなり、子球形成数、展葉数、発根程度が増加し、冷蔵処理14日と同等以上の効果が見られた(表1)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 冷蔵又は冷凍処理を行う際は母球を湿ピートモスでパッキングする。
2. 冷凍球根の解凍方法は農業総合センター技術情報30に従う。
3. リン片挿しに使用するリン片は面積1cm<sup>2</sup>(縦径×横径)以上を用いる。
4. リン片挿し及び定植時期の遅れは年内の株の生育不揃いの原因となる。このため、遅くとも8月上旬までにリン片挿しを行い、展葉後はすみやかに定植する。

[具体的データ]

低温処理	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
冷蔵0日											△	—————		◎
冷蔵7日											◇=△	—————		◎
冷蔵14日											◇=△	=====		◎
冷凍											◇	=====	△	◎

◇：母球掘り上げ △：リン片挿し ◎：定植 ———：1℃冷蔵期間 -----：-2℃冷凍期間

注) 冷蔵0～14日処理区は前年の10月上旬定植、無加温栽培、6月下旬に切り花終了。

冷凍処理区は前々年の10月上旬定植、無加温栽培、前年の6月下旬に切り花終了。

全区とも処理開始前日に母球を掘り上げた。

図1 母球の低温処理開始時期から定植までの作型

表1 母球の低温処理が苗形成に及ぼす影響

低温処理方法	成苗率 <sup>z</sup> (%)	子球形成数 <sup>y</sup> (個)	展葉数 <sup>y</sup> (枚)	発根程度 <sup>yx</sup>
冷蔵0日	28.7	1.3	1.5	2.5
冷蔵7日	38.1	1.2	1.7	2.5
冷蔵14日	71.3	1.3	2.9	2.7
冷凍	76.8	1.7	3.0	2.8

z (定植時に子球1個以上形成、葉が1枚以上展葉、十分量の根が発根の3点を満たす苗) / 供試リン片数  
y 成苗当り

x 0: 発根無～3: 発根多の4段階で評価

[その他]

試験研究課題・事業名：オリジナルリリーの育苗の安定化と生理障害対策

予算区分：県単

研究期間：平成16～18年度